

令和2年度 事務事業総点検シート(1)
[令和元年度事務事業]

一般会計					事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	結核対策特別促進事業				シート番号	011-236
担当部署名	健康福祉	局	保健部 保健所	部	感染症対策	課 評価責任者(課長名) 中井

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	1	暮らしの確かな安全・安心を確保します	後期実施計画の位置付け
			施策	1	市民の命を守る健康・医療体制の強化	無
	2	事業開始年度	昭和 26 年度		終了(予定)年度	— 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律			
	4	関連計画				
5	事業実施の経緯	結核は、かつて国民病と言われるほど患者数も多く、また不治の病と恐れられていた。治療薬の普及、栄養・衛生状態の改善などにより患者数は激減したが、未だに国内で毎年約16,000人の結核患者が新たに発生し、毎年約2,200人の人が結核で亡くなっている。地域における結核のまん延を防止するためには、結核患者への服薬支援による再発防止・多剤耐性結核の予防や結核ハイリスク者層への結核検診の実施などの対策が重要である。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 () <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ()					
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか)	全市民					
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか)	・結核の再発・多剤耐性結核を予防するためDOTS事業による確実な治療の推進を図る。 ・結核り患の多い高齢者等に対する結核予防事業を実施し、あわせて啓発を行うことで高齢者の結核り患率を低下させる。					
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	・DOTS支援員(訪問看護師、協力薬局など)による服薬支援(DOTS)の実施。 ・ハイリスク者(高齢者など)に対する結核検診や啓発の実施。 ※DOTS…(Directly Observed Treatment Short Course)直接監視下服薬短期療法。 患者の服薬を医療従事者が直接確認し、服薬を支援する治療方法。					
10	直接実施以外の主な支出先	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 () 一般社団法人 堺市薬剤師会						

Ⅲ. 投入量

事業コスト	項目	単位	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
			予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	
11	事業費 (a)	千円	7,217	5,317	7,290	5,184	7,026	5,445	7,274	
	主な事業費内訳	報償費	千円	1,645	758	1,612	771	1,396	754	1,426
		委託料	千円	1,243	507	1,243	518	1,250	511	1,254
		その他(需用費等)	千円	1,117	981	1,223	806	1,140	1,007	1,902
		報酬	千円	3,212	3,071	3,212	3,089	3,240	3,173	2,692
	財源内訳	国・府支出金	千円	6,111	4,138	6,215	4,076	6,238	3,710	5,788
		受益者負担金(使用料、手数料等)	千円							
		市債	千円							
		その他()	千円							
		一般財源	千円	1,106	1,179	1,075	1,108	788	1,735	1,486
	12	人件費 (b)	千円	18,251	18,251	18,440	18,440	19,050	19,050	19,320
13	総コスト(c)=(a)+(b)	千円	25,468	23,568	25,730	23,624	26,076	24,495	26,594	

令和2年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	結核対策特別促進事業	シート番号	011-236
-------	------------	-------	---------

Ⅳ. 評価(測定・分析)》

ロジックモデルの考え方



[14] 令和元年度実績の欄に定性的・定量的情報も含め、活動・結果・成果について具体的に記載

[15]または[16]に定量的な指標、または定性的な目標を記載

事業の活動実績や成果

		令和元年度実績						
活動実績と成果	14	<p>DOTS事業については、協力薬局・協力医療機関による委託実施と保健師・看護師等による直接実施により運用している。実施機関の選択には対象者の治療状況や利便性なども考慮して決定しており、治療完遂に向けて適切な実施機関を選択している。また、結核の治療やDOTS事業については対象者の周囲の人々の理解も重要であるため、高齢者施設等への研修会や情報提供を実施し、DOTS事業への理解を求めた。(研修会参加者数82名)</p> <p>治療終了後も定期病状調査として治療終了者(自己中断等も含む)に対して、病状の確認を行っている。(R1年度: 244名)</p> <p>結核り患の高い高齢者等に対する結核予防事業としてシルバー人材センター会員登録者向けに胸部エックス線検査を実施した。検診実施までに、シルバー人材センター会員向け広報や会員同士の会議の場などにおいて啓発や健康教育を実施した。また検診の結果、要精密検査や要経過観察と判定された方に対し、検診後のフォローと受診勧奨を行った。</p> <p>市内医療機関向けに堺市結核研修(堺市結核指定医療機関講習会)を実施した。結核専門病院の医師を講師として招請し、結核の診断方法をはじめとした情報提供を実施した。(研修参加者数34名)</p>						
	15	指標名【活動指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		全患者に対するDOTS実施率	%	目標値	95	95	95	95
				実績値	100	97	98	
				達成率	105%	103%	103%	
	評価			良い	良い	良い		
	算出方法・設定根拠など		前年の新登録患者に対するDOTS実施率。堺市の結核対策の推進に向けた基本目標参照。					
	16	指標名【成果指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		排菌患者の治療完遂率	%	目標値	100	100	100	100
				実績値	98	98	100	
				達成率	98%	98%	100%	
	評価			普通	普通	良い		
	算出方法・設定根拠など		前年の新登録排菌患者のうち治療完遂者÷治療終了者(治療中の死亡・転出を除く)					

事業の効率性

		区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
17	①						
	②	上記①にかかる年間経費	千円				
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位				
	備考(算出についての説明等)		DOTSは患者により実施方法・単価が異なるため、効率性の算出にそぐわない。				
18			区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	①						
	②	上記①にかかる年間経費	千円				
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位				
備考(算出についての説明等)							

業績の分析

19	目標を達成できた、または達成できなかった要因や効率性についての分析(その他、関連情報に基づいた分析)
	<p>全患者に対するDOTS実施率は目標を達成できた。全結核患者に対し対面で服薬治療の重要性を説明し、結核精度管理研修会も毎年度実施することで、DOTSに対する理解率も年々上昇している。(研修参加者82名中DOTSを知っていた割合: 39%)</p> <p>排菌患者の治療完遂率については薬剤による副作用のため治療を中止した例が1例あり、目標を下回った。排菌患者に対して面接により、服薬治療の重要性を説明するとともに病院とも連携して、患者に即した対応を行っている。</p> <p>高齢者等に対する結核予防事業についてはシルバー人材センター会員登録者向けに実施した胸部エックス線検査において、令和元年度は受検者全136名中結核患者は発見されなかったが、検診の重要性を啓発するとともに肺がん・結核検診を周知することができた。</p> <p>結核指定医療機関講習会については、65%が「大変参考となった」残る35%で「参考となった」とのアンケート結果を得ており、結核の知識普及に寄与できた。</p>

【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありましたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありましたか。
- 有効性は高いですか。低いですか。
- 効率性は向上していますか。
- RPA等をはじめとするICTを活用する余地はありましたか。
- ターゲットに応じた最適媒体の選定など、戦略的な広報ができていましたか。

令和2年度 事務事業総点検シート(3)

事務事業名	結核対策特別促進事業	シート番号	011-236
-------	------------	-------	---------

《V. 点検》

＜点検の前提＞

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、本市の財政運営は今後一層厳しくなる
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止と社会経済活動の両立をめざす

○上記「点検の前提」を踏まえ、事業の抜本的な見直しを検討するもの。

⇒

<input checked="" type="checkbox"/>	確認
-------------------------------------	----

コロナ禍を踏まえた点検（必要性・有効性・効率性）	20	本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を廃止できないか。	事業廃止の可能性 <input type="checkbox"/> 廃止できる <input checked="" type="checkbox"/> 廃止できない	廃止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響 結核患者は治療を途中で中断したり、誤った方法で実施することで、再発の恐れや薬剤耐性を引き起こすことがあるため、DOTS支援者により服薬支援を行うことで治療完遂を目指す必要がある。 また、ハイリスク者に対して結核検診を実施することで、結核患者の早期発見・治療を目指し、まん延を防止する必要があるため廃止できない。	
	21	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を休止(延期)できないか。	事業休止の可能性 <input type="checkbox"/> 休止(延期)できる <input checked="" type="checkbox"/> 休止(延期)できない	休止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響 結核の新規患者及び治療中の患者は年間を通して、一定数存在するため、事業を休止することはできない。	休止の場合の再開時期 <input type="checkbox"/> 令和2年度中 <input type="checkbox"/> 令和3年度 <input type="checkbox"/> 令和4年度以降
	22	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、事業規模を縮小するなど、コスト縮減を図ることができないか。	コストの縮減 <input type="checkbox"/> 一部廃止しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 一部休止しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 規模等を縮小しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 事業手法等を改善しコスト縮減できる <input checked="" type="checkbox"/> 縮減できない	縮減できる場合は具体的な縮減内容、できない場合はその理由 新型コロナウイルス感染症の影響によりハイリスク者に対する結核検診の実施を中止することとなったが、全結核患者のうち、65歳以上の高齢者や外国人の新規結核患者の割合が増えていることを考慮すると、そのようなハイリスクグループに対する検診の実施や啓発を手厚くすることは必要であるため、事業規模を縮小することはできない。 また、DOTS支援についても新規の結核患者が発生する限り、縮小することは難しい。	
	23	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 社会経済活動の維持・回復のほか、3密を避けるなどの市民や民間の活動変容への対応に向け、実施手法を改善する必要がないか。	事業手法の適切性 <input checked="" type="checkbox"/> 改善する必要がある <input type="checkbox"/> 改善する必要がない <input type="checkbox"/> 既に対応できている	改善する場合は改善策、その他は理由 ハイリスク者については、新型コロナウイルスに感染するリスクも十分にあるため、検診や啓発を実施する際には、3密を避けるよう会場にてスペースを設ける。また、併せて新型コロナウイルスに関する啓発も含め注意喚起を促す。	
	24	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 効果的・効率的な事業の実施に向け、右に掲げる視点から改善できないか。	効果的・効率的な事業実施(以下の観点で、改善する(または改善済)場合は <input checked="" type="checkbox"/> 、改善しない(改善余地がない場合を含む)場合は <input type="checkbox"/>) ① <input type="checkbox"/> 公民連携の推進 ② <input checked="" type="checkbox"/> ICT活用による効率化 ③ <input type="checkbox"/> 他部局との適切な連携・役割分担 関係部署名 () 関連事業名 () ④ <input type="checkbox"/> 国・府等との適切な役割分担・連携 ⑤ <input type="checkbox"/> 他政令市等との比較におけるサービス水準の均衡 ⑥ <input type="checkbox"/> その他 ()	理由・説明	現在、結核患者に対する訪問やDOTSについての記録は紙媒体により記録している。また、個人情報を含むため、庁外への持ち出しが難しいこともあり、取り扱いに苦慮している。令和2年度よりモバイルワークアプリとして活用できないか検討しているところである。患者情報等をデータベースで管理し、業務の効率化を目指す必要がある。
25	これまでの点検を踏まえ、今後の事業のあり方についてどのように考えるか。	事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止または延期 <input type="checkbox"/> 事業を縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 現状を継続 <input type="checkbox"/> 事業を拡充 公金投入の方向性 <input type="checkbox"/> ゼロ <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡大	実施年度 <input checked="" type="checkbox"/> 令和2年度 <input type="checkbox"/> 令和3年度 <input type="checkbox"/> 令和4年度以降		
		所見 高齢者や外国人等の定期健康診断の受診機会が得られにくいハイリスク者層に対し実施しているハイリスク者検診について、新型コロナウイルス感染症の影響で中止する運びとなったが、これらの層については、新型コロナウイルス感染症に感染した場合のリスクも高いことから、啓発等により健康診断の受診意欲を高めるよう努める必要がある。			